都農町マップ　9班

宮本斉門、橋本隆誠、井上由梨、山本百合菜、大久保結衣

都農港及び都農港周辺

都農漁港では様々な種類の魚が水揚げされる。防波堤に囲われ、港内は穏やかである。競りが行われる市場には生け簀が据え付けられており、アジやイサキが泳いでいた。

都農漁港と関わりの深い町の取り組みとして、タマカイ養殖と都農水産加工センターの稼働が挙げられる。漁師の高齢化や後継者問題を抱え、漁獲力の減少にも直面する都農では、獲る漁業から育てる漁業に注目し、水産業の立て直しを目指した。その中で、「タマカイ」が着目された。タマカイは都農のほかに養殖を行っている例のない、希少価値の高い魚である。都農町では現在、陸上の二基の水槽でタマカイの養殖を行っており、ふるさと納税の返礼品として全国に出荷している。さらに、2026年9月には水槽を新設する予定である。水産加工センターでは、陸上養殖で生産されたタマカイや、都農漁港で水揚げされた魚を含む県内外の養殖魚や天然魚の加工を行っている。

都農港周辺の海では海水温上昇による磯焼けが発生しているほか、特に都農港南側の海岸は大きな石ばかりで、流れ着いた流木やごみが散らばっており景観が良くない。ところが、都農港北側は南側とは対照的に小規模な砂浜が広がっている。ここではサーフィンを行う人の姿が見られた。（宮本）

海抜表示板

都農町では、町の至る所に、海面から地面までの高さを表示した海抜表示板が設置されており、フィールドワーク中だけでも10個ほど発見した。特に住宅地が密集する港周辺では、海抜3mと表示されており、津波や水害時の危険性の高さを感じた。また、海抜表示板が3mを示す地点から、安全の目安とされる海抜10m以上の土地までは徒歩7分程度で到着できたが、港の方から高齢化が進んでいるという話を伺い、災害が発生した際に高齢者が安全に避難できるのか不安を感じた。(山本)

合鴨農法

この農法は福岡県発祥で、熊本県、佐賀県、新潟県、秋田県、宮崎県など、米作りが盛んな地域で取り組まれており、環境保全型農業や有機農業の1つとして注目されている。合鴨農法が多く見られる地域の特徴としては、

・水田の多い農村地域
・自然環境の保全を重視している地域
・有機農業が盛んな地域

が挙げられる。

この農法のメリットは、環境にやさしく大きな出費が出ないことなどがある。デメリットは、合鴨が他の動物に襲われること、管理が大変ということが挙げられる。

こうした農薬には頼らないという、環境のことを配慮した農法により、よりおいしく、より人のためになるのだとよく分かった。（橋本）

猫神様

都農町の福原尾に祀られており、祠の中に木造の猫の像が安置されている。この猫神様は、魚の骨が喉に刺さった時に治してくれる神様として地域の人々に信仰されてきた。

近くに漁港もあり、魚を食す機会が多い地域の人たちにとってはとても馴染みのある神様である。

普通とはちょっと変わったご利益でおもしろい神社である。

あと、神社名に対し、猫はあまりいなかった。（橋本）

妙福山龍雲寺

細島 妙国寺の布教所として建立された日蓮宗のお寺。この地を守護する雲人龍神様を祀っている。

現在、龍雲寺で住職をしている吉田憲由さんは、『ギターを抱えたお坊さん』として、県内のみならず全国で法話活動を行っている。また、龍雲寺の住職である吉田憲史さんが、様々なSNSを利用し、龍雲寺の情報発信に非常に力を入れており、様々な活動が写真と共に紹介されている。気になる方は是非チェックしてみて欲しい！

龍雲寺は地域の誇りとなるお寺を目指しており、地域活性化に繋がるような多くの取り組みを行っている。

以下、行事の一覧である。

①毎月行われている行事

・盛運祈願祭
毎月3日に行われ、ひと月の反省と新しい月の幸せを祈る。 家族や友人、全ての人々の幸せな生活を祈願している。

・雲人龍神様、水神様の縁日
毎月25日に行われ、町の水神様を回り、町民と共に法楽を開き感謝を捧げる行事である。

②年中行事

1月 新年祝祷会・大黒天祭
2月 星祭り祈祷会
　　ちからわく水行
3月 春の彼岸会
4月 花まつり
5月 都農鬼子母神大祭
7月 わんぱく寺子屋
8月 お施餓鬼大法要
9月 秋の彼岸会
11月 お会式法要
12月 除夜の小鐘

このように龍雲寺では様々な参加型の行事を行っている。これらの他にも人生相談や供養等、地域の人々に役立つような活動を行っている。（井上）

津波避難所

明田・福原尾の範囲ほとんどが浸水深さ5m未満の津波が到達する可能性がある。港がある下浜は10m以上の津波が予想されている。近くには、福原尾営農研修館と圓通寺の二カ所が避難地となっている。この二つは指定緊急避難場所となっており、緊急的に命を守るために逃げ込む場所である。

福原尾営農研修館は海抜16.7mの場所に位置し、津波・洪水・土砂避難に対応している。もう一つの圓通寺は海抜17.1mで、津波避難に対応している。津波の時、海抜10m以上への避難が推奨されており、どちらの避難所も満たしている。（大久保）

↑福原尾避難場所

地域福祉バス

都農町では、生活路線の確保のため、町内を巡回するコミュニティバスが運行している。コミュニティバスは、ラッピングバスとなっており、つのぴょんや特産物などのデザインを施されている。

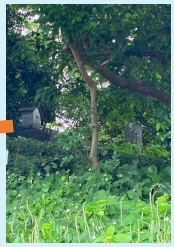
現在は、 14人乗り中型ワゴンが３台体制で巡回している。土日祝日及び年末年始を除いて、利用したい時間にバス停間を移動することが可能となっている。

利用の際は、事前に利用登録を行う必要があり、役場企画課への必要書類の提出、または、電話による利用登録が必要となる。現在は、一部区間を除き、利用の前日までの予約制となっている。(井上)

料金

１人１回あたり通常　　⇒200円
※・小学生以下
　・まちなか周回線
　・障害者手帳を持つ人 ⇒100円
※免許返納者への無料乗車券交付有り
🟢…マップ内にあるバス停

都農二十号古墳



これは宮崎県の史跡に指定されている古墳群の一つであり、福原尾地区にある。昭和11年に指定された。（土地開発などにより古墳群の一部は指定を外れている）

この第20号古墳は、「積石塚」とされており、九州でみられるものの中では珍しい形式の古墳であるが、発掘調査が実施されていないため、不明点が多い。

「積石塚」という古墳の形式のルーツは東北アジアにさかのぼるとされており、歴史的に重要な史跡である。

こうした「周知の埋蔵文化財包蔵地」において土木工事等を実施する場合には、工事着手の２か月以前に文化長官に届け出ることが文化財保護法により義務づけられている。

現在この第20号古墳は、周囲を草木に覆われており、一見すると古墳があるようには見えない。風化や破損が危惧される状態にある。今後発掘調査を行うためにも、より慎重な管理が必要であるだろう。（宮本）

ブドウ畑

道の至る所にぶどう畑が広がっていた。都農町では巨峰やシャインマスカットなど30種類以上のぶどうが生産されており、そこで収穫されたぶどうを使ったワインも特産品となっている。

都農町は降雨量が非常に多く、ぶどう栽培には多くの工夫が必要とされている地域であり、実際に発見したぶどう畑では、すべて「平棚栽培」が行われていた。枝を上から垂らすことで湿気対策につながり、雨の多い地域でも栽培しやすくしているという特徴がある。

近くで観察すると、ちょうど実を付け始めていた。また、平棚栽培は想像していたよりも木の高さが低く、作業や収穫は大変そうだと感じた。(山本)

空き家問題

都農町全体には多くの空き家があり、町全体の問題となっている。下浜には町全体で一番多く空き家が存在し、港周辺には200軒ほどの家があるが、その半分の100軒が空き家状態となっている。人口減少と高齢化の増加によって管理されない家が空き家となるケースが多くなっている。

港周辺は路地が狭く、昔の家並みがそのまま残っているため、車や重機が入れないところが多い。また、解体して家を建てようとしても現在の法律を満たすことが出来ないため処理できていない現象が起きている。

都農町は空き家を民間企業と連携し、住宅供給や地域の交流施設などへの活用、定住促進のための情報提供などを行っている。（大久保）

車一台分の横幅しかない！

感想

インタビューに答えてくださった町民の方々のおかげで、担当エリアの地域資源と悪い所の両方について理解を深めることができた。

自然が豊かで、アウトドアレジャー好きの自分には非常に魅力的な町だった。

（宮本）

今回の実習で初めて都農町に行ったが、普段自分の地域では見ない光景を目にし、温かい人たちに恵まれ、良い実習を行えたと思う。

地域の人にインタビューをする際も、丁寧に答えてくれてとても馴染みやすかった。

（橋本）

この実習を通して、都農町の方々の優しさに沢山触れ、都農町民には親切で親しみやすい方が多いことを知ることができた。

また、町の至る所に美化を促す看板が設置されており、都農町の自然豊かな美しい景観は地道な取り組みにより守られていることが分かった。

（井上）

今回のフィールドワークを通して、データや統計からは得ることのできない現場の雰囲気や実情を知ることができて、都農町への関心がさらに深まった。

特に、インタビューの際に、町の方々が温かく迎え入れてくださったのが印象に残っており、また訪れたいと思った。

（山本）

普段感じることができない景色や人々の暮らしなど、実際に行かなければ分からないことをたくさん知ることができて都農町の良さを見つけることが出来た。

また、町を歩くことで多くの人と出会い、話しかけてもらえたことがとても嬉しくて、もっと関わってみたいと思った。

（大久保）

上の写真は、都農町の漁師の方々から朝、獲れたてのお魚を頂いた写真である。

都農町の皆様、フィールドワーク活動へのご協力ありがとうございました！

出典

- 都農町."水産業未来プロジェクトについて".都農ページ（都農町公式ホームページ）.2024-11-13,https://www.town.tsuno.lg.jp/article?articleId=6733eefc2b3d016979cb7736.（参照2026-6-7）.
- 都農町."陸上養殖場整備工事のお知らせ".都農ページ（都農町公式ホームページ）.2025-11-18,https://www.town.tsuno.lg.jp/article?articleId=691c1ed03de36846352fe422.（参照2026-6-7）.
- 都農雲雲寺."都農雲雲寺".都農雲雲寺. https://tsuno-ryounji.com/.（参照2026-6-3).
- 宮崎県."都農町古墳".みやざきのデジタルミュージアム）. https://www.miyazaki-archive.jp/d-museum/mch/details/view/2572.（参照2026-6-7）.
- 都農町."都農町遺跡詳細分布図について".都農ページ（都農町公式ホームページ）.2024-02-08,https://www.town.tsuno.lg.jp/article?articleId=65c451f8e1ad5e625dc396f1,（参照2026-6-7）.
- 髙山 耕二."アイガモ・水稲同時作（アイガモ農法）".みんなの農業広場.2020-3,https://www.jeinou.com/mobile/benri/rice/2009/05/201002.html.（参照2026-6-7）
- 前田 博仁."猫神様とはどんな神".宮崎みんなのポータルサイト miten.2023-9,https://www.miten.jp/miten/modules/popnupblog/index.php?param=10-202309.（参照2026-6-7）.
- 都農町."都農町ハザードマップ".都農町ホームページ.2015-3,https://prdurbanostnoapp1.blob.core.windows.net/common-article/604eb316889ebd12ec68497a/20150701120530.pdf.（参照2026-6-7）.
- 都農町."コミュニティバスの運行について".都農ページ（都農町公式ホームページ）.2022-06-20,https://www.town.tsuno.lg.jp/article?articleId=604ec335889ebd12ec684b26.（参照2026-6-6）.
- 都農町."都農町空家等対策計画".都農町公式ホームページ.2022-11-1,https://www.town.tsuno.lg.jp/article?articleId=6344f9b7722791056ba8499d.（参照2026-6-7）.